

日本学術会議 心理学・教育学委員会
健康・医療と心理学分科会（第24期・第4回）
心理教育プログラム検討分科会（第24期・第4回）

合同分科会 議事要旨

日時 令和元年8月1日（木）15:30-17:30

場所 日本学術会議 6-A（1）会議室

出席委員

健康・医療と心理学分科会

長田久雄、坂本真士、佐々木淳、重野 純、鈴木伸一、
丹野義彦、箱田裕司、長谷川寿一、福山秀直、松井三枝（五十音順）

心理教育プログラム検討分科会

遠藤利彦、長田久雄、楠見 孝、桑野園子、坂本真士、菅原ますみ、
鈴木伸一、外山みどり、中島祥好、箱田裕司、宮谷真人（五十音順）

審議事項

1) 前回議事要旨の確認

2) 公認心理師養成カリキュラムのあり方と今後の見直しについて

公認心理師養成大学教員連絡協議会（公大協）2018年度年報についての確認を行った後、可能であれば今年度中の提言発出に向けて、現行の公認心理師養成カリキュラムに関する問題点についての指摘、意見交換を行った。

挙げられた問題点としては、学部カリキュラムに関して、複数の領域を連結した名称の必修科目の問題、公認心理師用の科目を従来のカリキュラムと整合させることの困難さ、大学間のコンソーシアム制度を確立する必要性などが指摘され、大学院の実習に関しては、評価基準の明確化と質保証の問題、実習担当者の資格等に関する問題、実習先の範囲を拡大する必要性などが議論された。

また国家試験に向けたブループリントの問題点が指摘され、現在の研究レベルを反映した内容に改善する必要性が議論された。さらに、高校レベルでの心理学教育の導入、大学・大学院での公認心理師養成、キャリアパスとしての公認心理師、社会に対する公認心理師の貢献などを、一連の流れとしてアピールすることの重要性が確認された。

3) 各分科会の今後の活動について

健康・医療と心理学分科会より

本年10月6日と11月10日に開催される「高次脳機能障害の実際と心理学の役割」（日本心理学会公開シンポジウムに共催）のポスターが配布され、参加が呼びかけられた。また、精神科以外の医療分野や、広く社会の各方面に対する心理学の必要性を周知していくべきであることも指摘された。

心理学教育プログラム検討分科会より

楠見委員長より、「高校における心理学教育のニーズと意義」に関する問題提起がなされ、2022年度入学者から適用される高校の指導要領の改訂に合わせて、公民科教員向けに心理学の知識等を伝えるための方策や、公民科教員養成の問題の検討が必要であり、また高校生対象の心理学の参考書やリソース集などを準備することが重要であるとの示唆がなされた。

また本年9月12日と12月7日に、公開シンポジウム「高等学校への心理学教育の導入をめぐって」が開催されることが通知された。

4) 次回の日程

今回は、上記の公開シンポジウム「高等学校への心理学教育導入をめぐって」に合わせ、12月7日（土）に慶應義塾大学三田キャンパスで午前10:00～11:30に、今回同様、両分科会合同で開催される予定である。